

令和6年度

千葉県総合教育センター・子どもと親のサポートセンター 研究発表会

全国学力・学習状況調査の 活用推進に向けて

千葉県総合教育センター
学力調査部

1

発表の流れ

1 主題設定の理由



2 研究の目的



3 研究の計画



4 研究の内容



5 研究のまとめ



2

1 主題設定の理由



3

1 主題設定の理由

全国学力・学習状況調査の目的

教育施策の成果と課題を
検証し、改善を図る



学習指導や学習状況の
改善・充実等



継続的な
検証改善サイクル



※文部科学省「令和6年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」

説明資料 (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r06setsumeikai/index.html>) をもとに作成

4

I 主題設定の理由

調査問題について

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等
を問う



「主体的・対話的で深い学び」
の視点からの授業改善の
メッセージ



先生方にも重要

※文部科学省「令和6年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」
説明資料 (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r06setsumeikai/index.html>) をもとに作成

5

I 主題設定の理由

調査の目的

調査問題について

県全体の結果を分析すること、各学校における
全国調査の有効な活用を促すことが求められる。

6

I 主題設定の理由



2 研究の目的



3 研究の計画



4 研究の内容



5 研究のまとめ



7

2 研究の目的



8

2 研究の目的

令和6年度全国学力・学習状況調査における
調査結果を分析し、各学校による調査の活用を
促進すること

9

1 主題設定の理由



2 研究の目的



3 研究の計画



4 研究の内容



5 研究のまとめ



10

3 研究の計画



11

3 研究の計画（令和6年度単年度研究）

取組		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
分析	調査問題の分析										
	調査結果の分析										
活用促進	誤答分析シート										
	分析ツール										
	活用の手引き										
	手引きリーフレット										
	動画コンテンツ										
	効果的な取組の提案										

12

1 主題設定の理由

2 研究の目的

3 研究の計画



4 研究の内容



5 研究のまとめ



13

4 研究の内容

(1) 本県の令和6年度調査結果について



14

4(1)-1 教科に関する調査の本県結果

教科に関する調査結果（平均正答率）経年変化 ※千葉市含む

単位：％

小学校	H31 本県(全国)	R3 本県(全国)	R4 本県(全国)	R5 本県(全国)	R6 本県(全国)
国 語	63 (63.8)	65 (64.7)	66 (65.6)	67 (67.2)	67 (67.7)
算 数	66 (66.6)	70 (70.2)	63 (63.2)	62 (62.5)	63 (63.4)
中学校	H31 本県(全国)	R3 本県(全国)	R4 本県(全国)	R5 本県(全国)	R6 本県(全国)
国 語	72 (72.8)	65 (64.6)	68 (69.0)	69 (69.8)	57 (58.1)
数 学	58 (59.8)	56 (57.2)	50 (51.4)	51 (51.0)	51 (52.5)

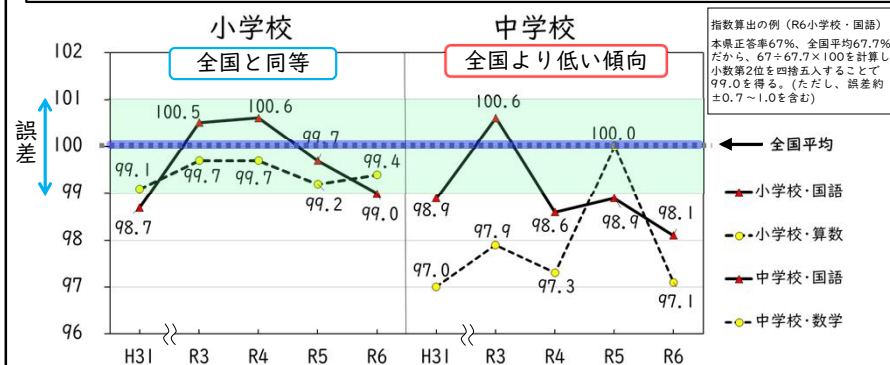
※数値は文科省発表によるものであり、H28以降、都道府県の平均正答率は四捨五入した整数値で公表されている。

15

4(1)-1 教科に関する調査の本県結果

教科別 平均正答率の指数（全国平均を100とした本県正答率の割合）の経年変化

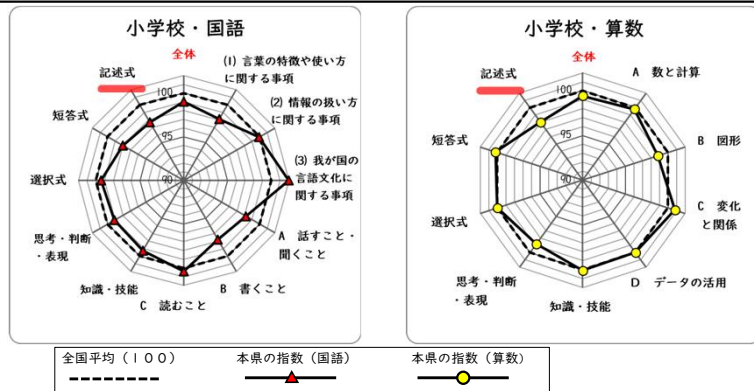
※千葉市含む



16

4(1)-1 教科に関する調査の本県結果

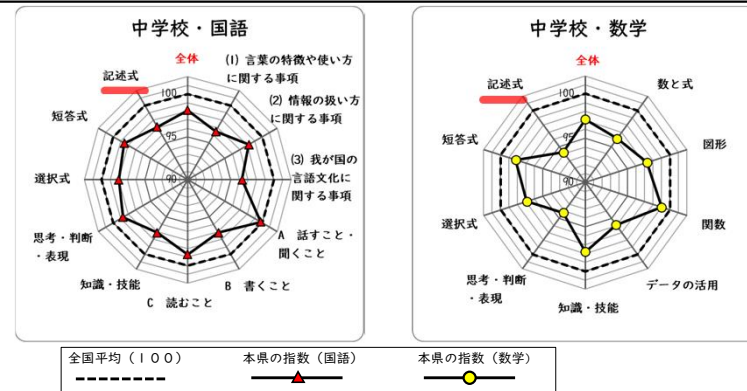
R6 項目別 平均正答率の指数 小学校 ※千葉市含む



17

4(1)-1 教科に関する調査の本県結果

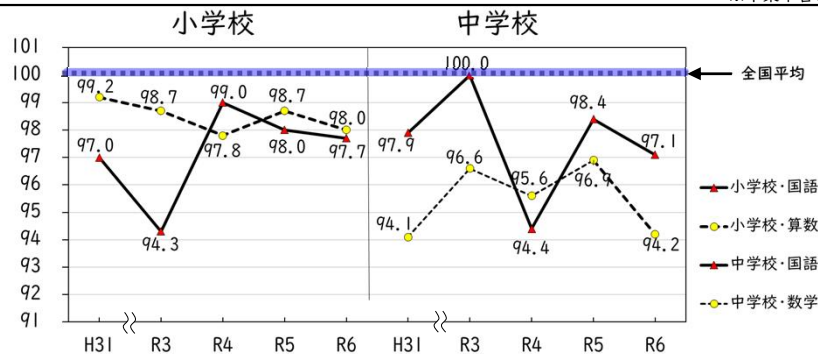
R6 項目別 平均正答率の指数 中学校 ※千葉市含む



18

4(1)-1 教科に関する調査の本県結果

「記述式」解答問題に対する教科別平均正答率の指数 経年変化 ※千葉市含む

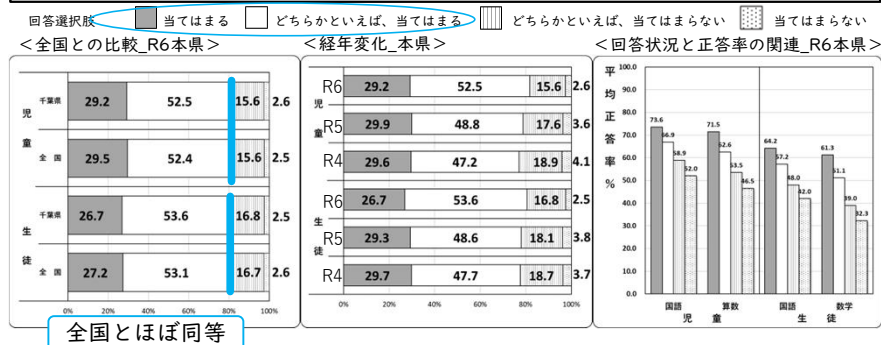


19

4(1)-2 質問調査の本県結果

主体的・対話的で深い学び

【児童生徒質問30(小)(中)】前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか (※千葉市を含む結果)



20

4(1)-2 質問調査の本県結果

主体的・対話的で深い学び

【児童生徒質問30(小)(中)】前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか (※千葉県を含む結果)

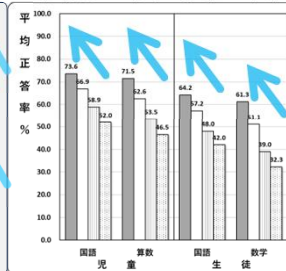
回答選択肢 ☒ 当てはまる ☐ どちらかといえば、当てはまる ☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない
 <全国との比較_R6本県> <経年変化_本県> <回答状況と正答率の関連_R6本県>

R6肯定的回答の割合

児童	本県	81.7%
	全国	81.9%
生徒	本県	80.3%
	全国	80.3%

肯定的回答の割合(本県)

児童	R6	81.7%
	R5	78.7%
	R4	76.8%
生徒	R6	80.3%
	R5	77.9%
	R4	77.4%



21

4(1)-2 質問調査の本県結果

主体的・対話的で深い学び

【児童生徒質問31(小)(中)】前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか (※千葉県を含む)

回答選択肢 ☒ 当てはまる ☐ どちらかといえば、当てはまる ☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない
 <全国との比較_R6本県> <経年変化_本県> <回答状況と正答率の関連_R6本県>



22

4(1)-2 質問調査の本県結果

主体的・対話的で深い学び

【児童生徒質問31(小)(中)】前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか (※千葉県を含む)

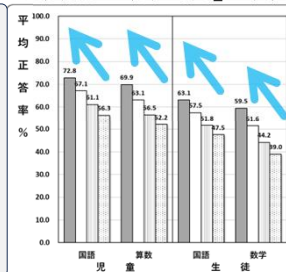
回答選択肢 ☒ 当てはまる ☐ どちらかといえば、当てはまる ☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない
 <全国との比較_R6本県> <経年変化_本県> <回答状況と正答率の関連_R6本県>

R6肯定的回答の割合

児童	本県	78.1%
	全国	79.6%
生徒	本県	73.8%
	全国	75.4%

肯定的回答の割合(本県)

児童	R6	78.1%
	→ R5	73.3%
	→ R4	70.8%
生徒	R6	73.8%
	→ R5	65.2%
	→ R4	63.2%



23

4(1)-3 令和6年度の本県結果分析から

本県の現状【R6調査結果】

- 教科に関する調査において、どの教科でも記述式問題で、全国よりも平均正答率が低い

改善の方向性

全国学力・学習状況調査の活用を図る

- 課題の解決に向けた、自ら考え、自ら取り組む活動の充実
- 学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動の充実

24

4 研究の内容

(2) 全国学力・学習状況調査の学校における活用の充実



25

4(2) 全国学力・学習状況調査の学校における活用の充実

学力調査部の取組



分析シート



動画コンテンツ



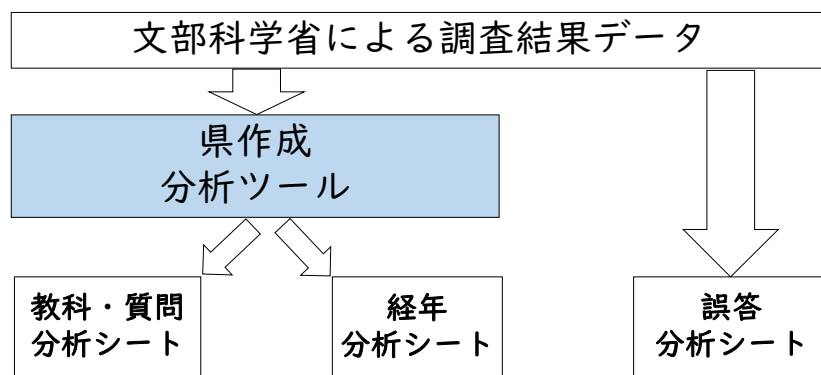
活用の手引き



説明・演習

26

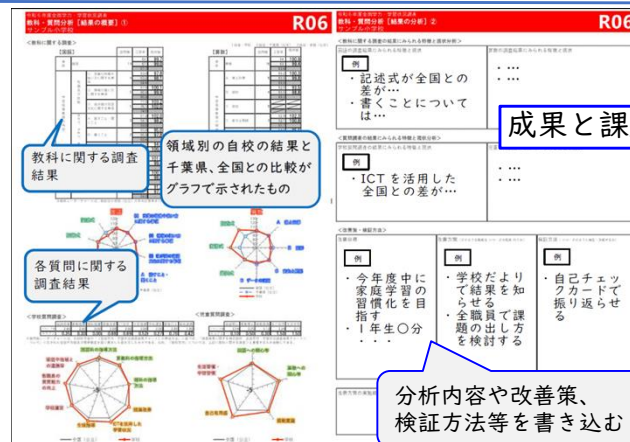
4(2)-1 県独自の「分析シート」



27

4(2)-1 県独自の「分析シート」教科・質問分析シート

表面



裏面

成果と課題を確認

28

4(2)-1 県独自の「分析シート」 経年分析シート

表面

項目ごとの経年変化がグラフで示されたもの

教科に関する調査結果の比較

各質問に関する調査結果の比較

裏面

経年での成果と課題を確認

分析内容や改善策、検証方法等を書き込む

29

4(2)-1 県独自の「分析シート」 誤答分析シート

左側

右側

誤答の反応率をもとに分析

適切な設問を選定・貼り付け

校内研修など学校全体で協議の上で改善方策等を記入

30

4(2)-2 全国調査の活用に係る動画コンテンツ

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画

調査結果データの見方について (1) 全般編

千葉県総合教育センター

・YouTubeの千葉県公式セミナーチャンネルで配信

・1本10分程度で活用しやすい

31

4(2)-2 全国調査の活用に係る動画コンテンツ

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画コンテンツ一覧 (令和6年10月公開)

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画

調査結果データの見方について (1) 全般編

千葉県総合教育センター

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画

調査結果データの見方について (2) S-P表編

千葉県総合教育センター

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画

県の分析シートを活用した結果分析について

千葉県総合教育センター

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画

令和6年度の調査概要と本県の結果について

千葉県総合教育センター

「各学校での校内研修」「教員個人による視聴」などの活用を想定しています。

32

4(2)-3 全国調査「活用の手引き」

- ・千葉県の調査結果のまとめ
- ・分析シートの使い方を詳しく紹介
- ・活用の具体例を紹介

※県総合教育センターwebページで
ダウンロード可能



県総合教育センターwebサイト内
の活用の手引のあるページ



33

4(2)-3 全国調査「活用の手引き」

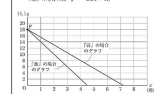
課題のある設問

出題の内容

ストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法をグラフや式を用いて説明する。
ア「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$
イ「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

ストーブが燃焼し始める時刻と灯油の残量

(例) 内蔵の式 $y = -4x + 18$
(例) 内蔵の式 $y = -2.5x + 18$



全国と千葉県との比較			
正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
全国 17.1	全国 16.4	千葉県 16.0	千葉県 18.5
自校	自校	自校	自校

改善のポイント

問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにするには

本設問を用いた指導の工夫

ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法について、式やグラフをどのように用いればよいかを説明する場面を設定し、考えることが大切である。



反応率と分析

解答類型別反応率 (諸君のうち反応率が高いもの)

①アを選択し、次の(a)、(b)について記述しているもの
(a)「強」の場合の式と「弱」の場合の式に $y = 0$ を代入すること。
(b) 上記(a)に対応する x の値の差を求めること。
②イを選択し、次の(c)、(d)又は(c)、(e)について記述しているもの
(c)「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフの y 座標が0である点に着目すること。
(d) 上記(c)に対応する x の値の差を求めること。
(e) 上記(c)に対応する x の値の差を求めること。

解答類型	反応率 (%)
アを選択し、式を用いることについて記述しているが、(a)、(b)について記述していないもの	全 国 4.3 千葉県 4.2 自 校 ()
(例) それぞれの式から「強」の場合は1時間あたり4L、「弱」の場合は1時間あたり2.5L灯油が減ることから求める。	
イを選択し、グラフを用いることについて記述しているが、(c)、(d)、(e)について記述していないもの	全 国 10.2 千葉県 10.7 自 校 ()
(例) グラフを比べると、「強」では4時間経たずに灯油がなくなり、「弱」では7時間経たずに灯油がなくなる。よって、「弱」の方が長く使える。	

34

4(2)-3 全国調査「活用の手引き」

トピックⅠ 市町村教育委員会等の取組について

県内の小中学校等において児童生徒の学力向上を推進するにあたっては、市町村教育委員会の役割が重要である。市町村によっては独自の学力調査を実施しているが、その目的はもちろん、全数抽出単一教科が複数教科か、などの実施方法はさまざまです。特に、次の(1)、(2)のように、民間事業者を活用するかどうかという点で見ると、運営面や予算面など、大きな違いがあると考えられます。

(1) 民間事業者等が実施する調査を採用
(2) 市町村で委員会等を組織して調査を実施

どちらもメリット・デメリットがあり、細かな言及はしませんが、予算的な措置が十分でないという方法で実施することはできません。そこで、ここでは(2)の方法で独自の学力調査を実施して八街市教育委員会の取組を紹介いたします。

八街市教育委員会の取組

八街市教育委員会では、市内全小学生対象の基礎学力調査(国語、算数)のうち、今年度、算数について、MEXCBTを活用してCBT方式で実施しました。

【調査全体概要】

現状と背景

○平成21年から「八街市小学校基礎学力調査」(教科:国語・算数 対象:1~6年生)を実施。
○GIGAスクール構想により児童生徒に対して1人1台端末の環境が整備され、学校や家庭における文部科学省のCBTシステム(MEXCBT:メックビット)の活用が推進されている。

・市町村教育委員会の取組についても紹介

・この他、動画コンテンツについても紹介

35

4(2)-4 各種研修における説明・演習

各種研修の実施

○研修内容

(説明) 本県の調査結果概要、校内体制・校内研修の具体例
分析シートの活用方法、S-P表の見方など

(演習) 各対象に対するワークショップ

○R6年度実績

①活用研修会(対象:市町村教育委員会指導主事)

②研修企画部が実施する各種研修

(対象:初任者、教務主任等、新任研究主任、長期研修生等 ※主に小中学校)

③カリキュラム開発部が実施する出前講座(対象:中堅教員)

36

4(2)-4 各種研修における説明・演習 活用研修会

令和6年度

「全国学力・学習状況調査」の活用に関する研修会



千葉県総合教育センター

オンライン方式 (5/22実施)



37

4(2)-4 各種研修における説明・演習 活用研修会

【参加者の意見】

・オンラインの実施はとても良かったです。ありがとうございました。

・グループ協議がとてもためになりました。また、練習会があったので本番の発表がスムーズにできたのが研修に参加する安心感に繋がりました。

・他市町村の取組等を知ることができ、大変充実した研修となりました。

38

1 主題設定の理由

2 研究の目的

3 研究の計画



4 研究の内容



5 研究のまとめ



39

5 研究のまとめ

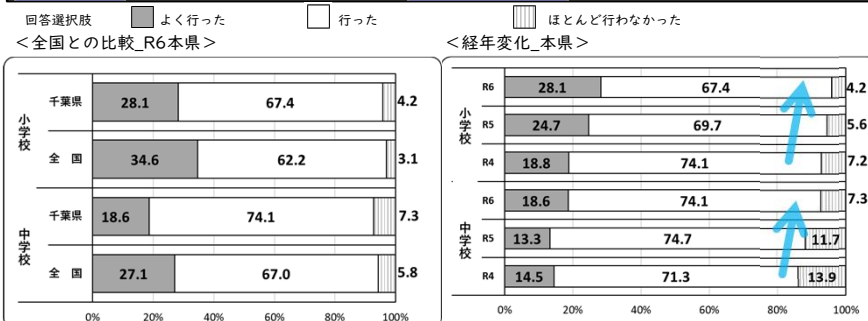


40

5 研究のまとめ

調査結果の活用

【学校質問74(小)78(中)】前年度の全国調査の自校の結果について、
学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか (※千葉市を含む結果)

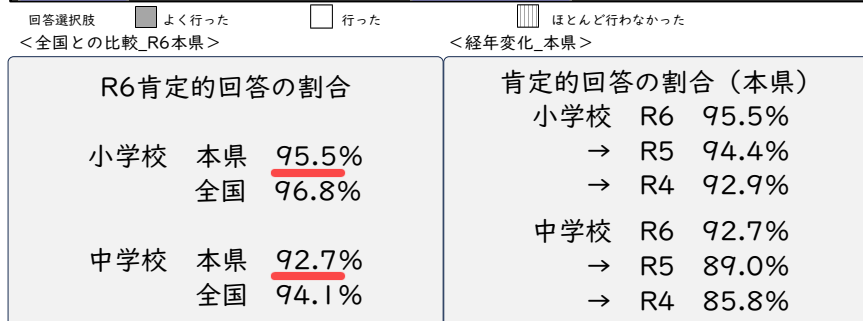


41

5 研究のまとめ

調査結果の活用

【学校質問74(小)78(中)】前年度の全国調査の自校の結果について、
学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか (※千葉市を含む結果)



42

5 研究のまとめ

「全国学力・学習状況調査の活用状況」に関するチェックシート

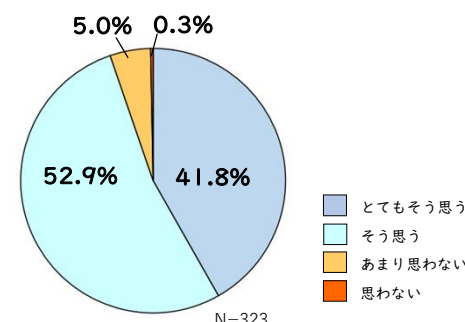
チェック項目	年度初め	調査実施後	調査結果提供後	通年
1 調査結果を、調査を活用した指導改善・学校改善に取り組みたい旨の意図を明らかにしている				
2 調査結果に関する調査の問題を解き、出題の意図を確認している				
3 調査結果に、授業改善の参考に活用している				
4 調査結果の活用状況を、学習指導の改善・充実等に取り組みたい旨の意図を明らかにしている				
5 調査結果を、学校(学級)の課題を明らかにしている				
6 調査結果を活用し、学校(学級)の課題を明らかにしている				
7 調査結果や分析シートを活用して、改善策を検討している				
8 調査結果や分析シートを活用して、改善策を検討している				
9 調査結果や分析シートを活用して、改善策を検討している				
10 「全国学力・学習状況調査活用」の多岐にわたる指導改善・学校改善の意図を明らかにしている				
11 調査結果や分析シートを活用して、改善策を検討している				
12 調査結果や分析シートを活用して、改善策を検討している				
13 「全国学力・学習状況調査」を活用して、改善策を検討している				
14 「全国学力・学習状況調査」を活用して、改善策を検討している				
15 「全国学力・学習状況調査」を活用して、改善策を検討している				

43

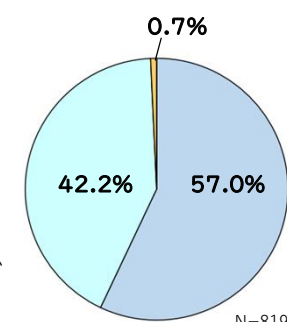
5 研究のまとめ

<全国調査に関する研修の参加者へのアンケート>

本日の研修については
満足のものだったか



今後の指導や教育実践に
生かせる内容だったか



44

5 研究のまとめ

- 【成果】 ○ 学校全体で教育活動を改善するために
全国調査の結果を活用している学校が増加
- 参加者に合わせた研修で高い満足度を獲得

- 【課題】 ▲ 活用を「よく行った」と回答した学校が
全国平均よりやや少ない

→全国調査の活用を促す取組を進める

45

令和6年度

千葉県総合教育センター・子どもと親のサポートセンター 研究発表会

全国学力・学習状況調査の 活用推進に向けて

千葉県総合教育センター
学力調査部

46